



『子どもの宇宙』

副校長：武藤 浩之

□ “子どもの宇宙” (岩波新書) という本があります。著者は河合隼雄氏。1928生～2007没。心理学者で、文化庁長官も務めました。専門は分析心理学、臨床心理学。家族のありよう、子育て、学校、児童文学など、教育全般にわたる著書が多数あり、そのうちの一冊が“子どもの宇宙”です。この本の冒頭で紹介されていた小学一年生の詩を右に載せました。

■ 『一人ひとりの子どもの中には宇宙がある。それは無限の広がりと深さを持って存在している。子どもたちの澄んだ目は、この宇宙を見すえて、日々新たな発見をしている』河合氏はそう述べつつも、『残念なことに子どもたちは、発見について大人たちにあまり話してくれない』と嘆いています。裏返せばそれは、子どもの声に耳を傾けていないのではないかという、大人たちへの問いかけでもあります。

かみさま
かみさまはうれしいことも
かなしいこともみえています
このよのなか
みんないいひとばかりやったら
かみさまもあきてくるんとかうかな
かみさまが
かしこいひとあほなひとつくるのは
たいくつするからです
やました みちこ

□ ところで、右の詩です。そこから、やましたみちこさんの宇宙を垣間見ることができます。うれしいこともかなしいことも、みんな神様が見ている宇宙。よいこともそうではないことも、みんな神様が見ている宇宙。何と慈愛に満ちた素晴らしい宇宙でしょう。見事に真を突いていると感じるのは、一年生の澄んだ目で見すえた宇宙だからこそ、のことだと思えます。

■ 聖母小の子どもたちが、日常的に取り組んでいる日記。国語の授業を通して学び、書き上げた詩や作文。あるいは生活の中での何気ない言葉、つぶやき。いずれも“子どもの宇宙”からの発信です。大人もかつては子ども。“子どもの宇宙”がありました。時には目を向け、耳を傾けたいものです。

ご協力に感謝!～募金活動～

1月11日(木)と12日(金)の二日間、第2回募金活動が行われました。今回、集められた金額は 〇〇〇円です。昨年末の第1回との総額は、〇〇〇円になりました。

先日、右の表の通り、募金の送付先が決まりました。活動の中心となっている奉仕委員会の報告と重複しますが、「聖母小だより」は外部に配付することがあり、また、学校側の記録にもなりますので、掲載しました。

保護者の皆様のご協力に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。(武)

| | 送付先 | 金額 |
|---|------|------|
| ① | 〇〇〇〇 | 〇〇〇円 |
| ② | 〇〇〇〇 | 〇〇〇円 |
| ③ | 〇〇〇〇 | 〇〇〇円 |
| ④ | 〇〇〇〇 | 〇〇〇円 |
| ⑤ | 〇〇〇〇 | 〇〇〇円 |
| ⑥ | 〇〇〇〇 | 〇〇〇円 |
| ⑦ | 〇〇〇〇 | 〇〇〇円 |
| | 総額 | 〇〇〇円 |

「ベルマーク作業」

学校側担当：定方

《日時》

・2月17日(土) 10:00～11:30

《場所》

・特別教室棟2階「万能室」

《確認》

・前回までに当番になっていた方で、欠席されていた場合は、今回の作業に必ず参加して下さい。

「資源回収」

学校側担当：湯川

《日時》

2月17日(土) 7:40～9:00

《場所》

「児童玄関前」

《日時》

今年度最後の資源回収になります。より多くのご協力をお願いします。

れんらく & おわかい

「2/17 下校用スクールバス」の件 事務

- ・2月17日(土)に、幼稚園の「感謝の会」が行なわれます。
- ・終了後は、親子で降園になるため、幼稚園のバスは運行しません。
- ・これに伴い、小学校の下校用バスの発車時刻を次のように変更いたします。
- *13:25から12:25に変更。
- *通常より1時間ほど早く降車場所に到着。
- ・以上、ご承知おき下さい。

「授業料の引落とし日」 事務

- ・2月13日(火)です。
- *2, 3月分まとめての引落としになります。

「作文コンクール 受賞」 国語科

- ・第19回 NHK全国俳句大会ジュニアの部
【入選】 3年1組: 〇〇〇
 - ・第19回 NHK全国短歌大会ジュニアの部
【秀作】 4年1組: 〇〇〇
- おめでとう!!

ミニコラムNo.36 優しく素直な心、我慢と許しの心

桜の聖母学院幼稚園 年少 ちゅうりっぷ組担任：高城 享子

- ◆今年度、久しぶりに年少組の担任となりましたが、この1年、子どもたちの成長を間近で見ながら、強く感じたことがあります。それは、友だちの存在の大きさです。大好きなお母さんから離れ、不安そうだった子どもたちが喜んで登園できるようになるのは、好きな友だちができ始めた頃からです。その変化は驚くほどです。大きな声で挨拶をするようになり、表情も豊かになります。
- ◆3学期を迎えた今は、友だちとの関わりが更に深まっています。大声で言い合いをしている友だちがいると、「僕に話してごらん。」と仲裁に入ったり、着替えて悪戦苦闘している友だちを手伝ったり、落ちていた帽子をそっと拾って掛けてあげたりと、胸がほっこりするような姿が毎日のように見られます。
- ◆年度始めに卒園生に会うと、一緒に来た他園からの友だちを紹介されることがあります。そういう時、新しい出会いを楽しむ姿が、とても頼もしく見えます。学年が進むと、友だちとの関わり方が難しいと感じることもあるでしょう。でも、友だちとのよい関係は、生活を楽しく心を元気にしてくれます。
- ◆本学院幼稚園の園児たち、そして小学校の児童の皆さんも、時に小さな子どものように優しく素直な心で、時に我慢と許しの心で友だち関係を築き、豊かな毎日を過ごしてくれることを願っています。



お弁当の時間に～平成27年度卒園生